

【シルクとは】

蚕(かいこ)が吐く糸、繭(まゆ)からとった動物性由来の繊維。

<書物より絹の歴史を紐解く>

- ・紫式部が「絹を着ると1000年寿命が延びる」と記した。
- ・江戸時代に夜着の中に真綿を入れて着ていた。

【シルクの特徴】

繭は蚕の命を守るシェルターとしての役割を持つ。天然素材として、保温性、保湿性、吸湿性、放湿性などの機能性にすぐれている。冬は温かく、夏は爽やか。「素肌に身につけることのできる健康素材」と言われている。肌をキレイにする(整肌性、保湿性)、抗菌効果、防臭、紫外線カット、埃が出にくい、静電気がおきにくい、心地よさ、などの特徴もある。

<繊維の特徴>

- ・1本の糸が1,300~1,500メートルと非常に長い(長繊維)ので、繊維にすると空気を抱き込みやすく、とても暖かい。
- ・糸の表面がギザギザしているので、肌の角質をきれいに落としてくれる。
- ・繊維のアミノ酸構成が特徴的で、シルク独特のしなやかさと強さがある。

【シルク業界の現状と問題点】

戦前は繭生産量は40万トン(世界最大のシルク輸出国)だったが、現在の繭の生産量は0.22万トンまで減少している。繭の世界生産量に対する国内生産量の割合は0.02%まで落ち込み、国内で操糸(繭から生糸をつくる)をしているのは5-6箇所というのが現状。

1929-30年 (昭和4-5年)	養蚕農家 220万戸 / 繭生産量 40万t	国内養蚕最盛期 世界最大の輸出国
2011年 (平成23年)	養蚕農家 486戸 / 繭生産量 220t	
2010年 (平成22年)	繭生産量(世界推計) 80万t	中国 61万t(75%) 他はインド、ウズベキスタン、ブラジルなど

シルクが機能的に優れているのに衰退の一途をたどる理由は3点。

(1) シルクの弱さや扱いにくさ

洗濯機で洗えないなど、衣料品の中心になれない(時代に合っていない)。

(2) 担い手、ものづくりをする若い人が少ない

提供する側、受け取る側ともに高齢化し、若い人へ技術が伝わらない。若い人達の認知度が低く、需要も下がり続けている。

(3) ものづくりとして捉えるとお金になりにくい

納期(いつ?)、見積もり(いくらで?)、クオリティー(どのくらいのものができる?)が必ず求められる。

作る側が収益ベースで考えていない。常に選択され続けており、「お客様が待っている」という言葉のプレッシャーを感じると、ものづくりは思うようにはできない。

【革新的な「何度も洗うことができるシルク」SHIDORIとは？】

「しどり = 神様に献上する布」という意味が古墳時代からありました。神に献上品として奉納されてきた「しどり」という尊い言葉を商品名に使ったのは、「現在の絹に対する危機的な状況に対し一生懸命取り組む」という山内社長の誓いが込められています。

シルクを強くするために、樹脂コーティングでシルクを包んでしまい、シルクの機能を無くしてしまっているシルク商品が殆どです。「シルク自体が薬であり、シルクが人のからだを守る」という天然素材としてのシルクの素晴らしい機能を温存しながら、何度も洗えて日常使いできるシルクがしどり(SHIDORI)です。8年がかりで誕生しました。

「お母さんの胎内に宿ってから永遠の眠りにつくまで、いつも一番側に寄り添うお守りのような肌着を子供に着て欲しい」という想いを形にしたSHIDORIの商品がたまもの(TAMAMONO)です。

【山嘉精練 山内社長の役割と想い】

- ・「日本国内に絹糸を残すこと、絹を扱う技術を残すこと」が大きな役割。
- ・「アウトターからインナーへ」、「デリケートなシルクをデイリーなシルクへ」という考え方が、シルク業界の常識として実際の形にし、シルクの需要を増やし、絹業界の発展につなげる。
- ・「シルクの弱点」を克服し、「日本という国がシルクを必要とする」ようにする。

【山内社長の言葉】

○ものづくりとは…

リメイクではなく、固定概念をなくし、枠を取り払い、習慣・慣れ・慣習を覆す(= 無になること)からスタートすること。

○現在の仕事は…

20年に1回行われる伊勢神宮の式年遷宮で絹糸を使用します。その絹糸をお持ちする数週間の仕事をきちんと行なえるようにするために、残りの19年と11ヶ月間、毎日仕事を続けています。

講師 山内伸介

シルクに携わる職人としては19代目。1555年に初代 井関宗鱗が紋・織業を創始。1571年より京都御所の織物を一手に引き受ける。その後300年にわたり御寮織物司(天皇の御衣装束を制作する人のこと)を代々受け継ぐ。1867年の大政奉還により、1970年御寮織物司は廃止となるが、絹の伝統や技術は現在も460年以上にわたり京都でその技法ともの創りの精神を継承し、新たなシルクの可能性を日々追求し続けている。

○(株) 山嘉精練

<http://sankaseiren.com/>

○SHIDORI

<http://shidori.org/>

○SHIDORIを使用したインナーウェアブランドTAMAMONO (販売元 (株) エレグランス)

<http://tamamono.co.jp/>

文責: 井上和佳子/ 佐野正行